

令和 5年 4月 3日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 福島孝雄



視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 5年 4月 17日 ~ 令和 5年 4月 19日 (3日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	千葉県我孫子市 東京都千代田区神田	●五味商店 ●全国スーパーマーケット協会 各情報交換 (市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等)
	東京都港区北青山 東京都豊島区東池袋	●ナチュラルハウス青山本店 ●紀ノ国屋青山店 ●こだわりや本部 各情報交換 (市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等)、店舗視察
	神奈川県相模原市 神奈川県横浜市	●イトーヨーカ堂古淵店 出雲フェア視察 ●F&F ●横浜ジョイナス店 各視察
3. 参加者	石橋広信 計 1名	
4. 添付書類	行程表 (別紙)	



【4月17日～19日】出張行程表(案)

月日	時間	出張者
		事務局長 長島 憲人 係長 高橋 潤一 【同行者】出雲市議会議員 石橋 広信 氏
4月17日(月)	7:30	【連絡バス】JR出雲市駅→出雲縁結び空港(8:00着)
	9:25	出雲縁結び空港 発(JAL278便)
	10:45	羽田空港 着
	11:23～12:44	移動 羽田空港→我孫子駅 (羽田空港→浜松町駅→新橋駅→我孫子駅)
	13:30～15:00	㈱五味商店(千葉県我孫子市本町3-4-9) 情報交換(市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等) 【応対者】㈱五味商店 代表取締役 寺谷健治 氏
	15:27～16:11	移動 我孫子駅→神田駅 (我孫子駅→日暮里駅→神田駅)
	16:20～17:30	(一社)全国スーパーマーケット協会(東京都千代田区内神田3-19-8) 情報交換(市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等) 【応対者】(一社)全国スーパーマーケット協会 事務局長 泉川信一 氏 ほか
	18:00	チェックイン 【宿泊先】アパホテル神田駅前(予定) (東京都千代田区鍛冶町2-10-3)(TEL:03-3526-5715)
4月18日(火)	9:00	ホテル 出発
	9:11～9:34	移動 神田駅→表参道駅(銀座線)
	10:00～11:30	㈱ナチュラルハウス青山本店(東京都港区北青山3-6-18) 情報交換(市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等)及び店舗視察 【応対者】㈱ナチュラルハウス 代表取締役社長 白川洋平 氏
	11:40～12:15	紀ノ国屋インターナショナル青山店(東京都港区北青山3-11) 店舗視察
	13:04～13:29	移動 表参道駅→東池袋駅 (表参道駅→永田町駅→東池袋駅)
	14:00～15:30	㈱こだわりや本部(東京都豊島区東池袋3-15-7 池栄ビル4階) 情報交換(市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等) 【応対者】㈱こだわりや 専務取締役 藤田 氏
	15:59～17:05	移動 東池袋駅→古淵駅 (東池袋駅→池袋駅→新宿駅→町田駅→古淵駅)
	17:20	チェックイン 【宿泊先】アパホテル相模原古淵駅前(予定) (神奈川県相模原市南区古淵3-9-8)(TEL:042-757-6551)
4月19日(水)	9:00	ホテル 出発 【合流】㈱マルシェ東京 代表取締役 吉岡雅彦 氏
	10:00～11:30	イトーヨーカドー古淵店(神奈川県相模原市古淵3-13-33) ※高橋は4/19～20日 販促活動予定 情報交換(市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等)及び店舗視察 【応対者】イトーヨーカドー古淵店 店長
	11:55～13:06	移動 古淵駅→羽田空港 ※店舗視察含む(自然食品F&F 横浜ジョイナス店) (古淵駅→東神奈川駅→横浜駅→羽田空港)
	17:15	羽田空港 発(JAL285便)
	18:40	出雲縁結び空港 着
	19:20	【連絡バス】出雲縁結び空港→JR出雲市駅

令和 5年 5月 8日

出雲市議会 議長 様

会 派 名 公明党

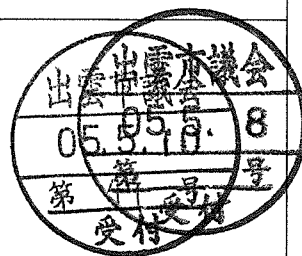
代表者氏名 福島孝雄



視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和5年 4月17日 ～令和 5年 4月 19日（3日間）	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	千葉県我孫子市 東京都千代田区神田 東京都港区北青山 東京都豊島区東池袋 神奈川県相模原市古淵 東京都千代田区有楽町	<ul style="list-style-type: none"> ●五味商店 ●全国スーパーマーケット協会 各情報交換（市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等） ●ナチュラルハウス青山本店 ●紀ノ国屋青山店 ●こだわりや本部 ●こだわりや ISP 店 各情報交換（市場動向、商品トレンド、消費者ニーズ等）、店舗視察 ●イトーヨーカ堂古淵店 出雲フェア視察 ●イトーヨーカドー打合せ 今後の展開、改善点の確認 ●日比谷しまね館 店内状況視察、取り扱い商品確認
3. 参 加 者	石橋広信 計 1名	
4. 添 付 書 類	1. 行程表 2. 報告書 3.	



【報告書】

◆ 五味商店：全国のこだわり商品を取扱う卸業者であり、各都道府県の地場商品の全面的な支援活動

石川県支援⇒商品価値の情報 PR、新幹線開通に合わせたアンテナショップの開設

九州支援⇒久原醤油店、売上が5億より50億へ（良質販店→量販店への展開指導）

長野県支援⇒ワーク SHOP の開催（各企業が集うことにより活性化）

3年間の実績が力となる（商品開発の PR、こうすればこうなる、行政が実感）

ライフ（大手スーパー）の場合⇒PB 商品を3種類持つ（良質、一般、量販用に）

プロの経営者⇒県内から県外へ（多くの市場を見て、知って飛び込んでいくこと）

今後の課題⇒運賃値上げによる価格変更、ベアのための原資、

各企業のマインドを外向きにできるか。プロの経営者を作る仕組みが必要

まずは家庭訪問。伴走型相談支援、今後行う予定

◆ 全国スーパーマーケット協会：全国のスーパーマーケット協会加盟店への販売促進支援

全国のスーパーマーケットの現状⇒かつてのディスカウントショップが良質販店に。各県がコラボしている（例 鳥取と岡山）今、冷食・ドライフルーツが売れている。お取り寄せ企画好評。

地方の商品を売りたいがらない。100円 shop が弱い。百貨店が厳しくなった。地方スーパー「ヤマカ」ではパートさんが店長へ。スーパー再建のため地銀が勉強会を始める。

各スーパーの成功例⇒カスミ（茨城）は冷凍食品を多種多様集めている。栃木では冷食化できる機会を導入、行政が支援。

出雲フェアの現状⇒今は売れ筋商品が1人立ちしている。次の商品がなかなか見えない。

買い物難民対策⇒キッチンカーの活用あり、しかしペイできているか・・・。

新しい販路・取組み⇒ネット販売、美容室系の間屋の通販。牛乳販売でのルートでの展開。会話ができるレジを持つ店舗（海外）資生堂の社内通販。

◆ ナチュラルハウス：全国に30店舗のオーガニックストアを持つ国内屈指の企業

出雲にてセミナーの開催予定⇒県立大学出雲キャンパスとのコラボ企画。オーガニック市場の現状と学生」を交えての商品開発等々

オーガニックの推移⇒オーガニック 1.0(1960年代)・オーガニック 2.0(2017年 日本のオーガニックの元年、有機認証中心)・オーガニック 3.0（有機認証にこだわらない。栽培履歴での認証。3.0の世界で本物のオーガニック）

自社の取組み⇒SLOW LIFE をテーマに4月25日目黒店オープン予定（誰が、どこで、どうやって作

ったかがわかるお店)

今後の方向性➡オーガニックステップ (オーガニックが求められるもの) 牛乳→野菜→米→肉→飲み物
→酒類→お菓子

今後の店頭の話り口➡「こだわり」手間暇かけている、から「お料理上手」顔の見える原料、原料の作
られ方を表示、PR。捨てられていたものが再生できれば (SDGs) による健康志向

後の注目➡米粉→豆粉 (これからは女性に、ギルトフリー) オーガニックフルーツ等々

◆ 紀ノ国屋インターナショナル青山店

店舗視察➡やはり国内唯一の良質販店。価格が違う。それでもお客さんは買って行かれる。

以前は島根県のメーカーの商品が多数あったが今は少ない。

◆ こだわりや本部：関東に 50 店舗のオーガニックのお店を持つ日本を代表する店舗

【藤田専務との意見交換会】

現在、大宮店の板垣店長が島根応援隊長として活躍。

こだわりやと島根県との取引の流れ➡最初は吉田ふるさと村からスタート

その後島根ブランド推室により島根フェア等の企画により現在 50 社以上の企業との取引あり (全国一)

なぜ島根? ➡海と山と畑がある、他の地域とだぶる商品がない、工場ですべて作っている、商品が多岐
に渡る、スーパーに島根産の野菜がない、対応力等々

コロナ禍での展開➡売上 100%以上達成している (健康意識が高い・質の良いものを選ばれる・料理を
しようとの意識・良質の油を使う・国産の丸大豆醤油使用等々)

24 年問題➡社長が企業との物流交渉

店のカラーの変更➡「赤色」から「クリーム色」への変更 (社内の若い店長からの提案、客層の変化)
に繋がる)

商品に対して➡アレンジがきかない商品が増えた。基礎調味料は新商品はいらない (元となる商品)

豊島区の取組み➡SDGs シティに認定 (区長 80 歳による推進)

今後のこだわりやとの取組み➡取引したい企業は「割り切り」ができる企業は可能性あり。

藤田専務に出雲に来ていただきまずは現場視察、企業との勉強会、そし
て各店舗での「出雲フェア」の開催

オーガニック商品、ワイルドクラフト商品大歓迎

◆ イトーヨーカドー古淵店

「出雲フェア」が本日より3週間開催。視察する

仲介業者のマルシェ東京の吉岡代表より説明を受ける

出雲の企業の商品が多数、食品売り場にて陳列されていた（お茶、お菓子、そば、ラーメン、シジミ、塩干もの、調味料等々）

吉岡氏より▶試飲、試食等ができない分、その商品を買ってみようとお客様に思ってもらえるような販促物は必須。まだまだそこら辺の意識が弱い

観光地で売れるような商品では売り上げにつながらない。手にとって食べてみたいと思ってもらえる個数とパッケージと価格が必要

今後は他店舗での「出雲フェア」の開催予定あり

【イトーヨーカドーとの意見交換】

ヨーカドー側：中村食品統括マネージャー、増田店長、大坪テナント催事マネージャー

マルシェ東京：吉岡社長、飯沼顧問

かつて、イベントと観光の同時開催は好評だった。今再び必要なのでは・・・。

分かりやすいPRポイントの活用

売り場の設営、ノベルティーの利用、出雲への招待券の活用

イベントで商品、企業を知ってもらい、その後に来県してもらい繋がりを築き長いお付き合いを

◆ 日比谷しまね館視察

日本橋から日比谷へ移転され展開中

アクセスも良い環境の中で、若い客層もあり島根県のアンテナショップとして大いに期待されている
新商品コーナー、春のおすすめ商品コーナー、おすすめ夜食コーナー等々企画多彩

是非、出雲企画として「神在月」企画「縁結び」企画等の提案、商品づくり必須

◆ 所感

各企業の皆さまがコロナ禍の中で、必死な営業活動をなされているのをひしひしと感じました。

仕入れて売る側と、商品を提供する側の思いがひとつにならないと今後の物販は難しいと思いました。

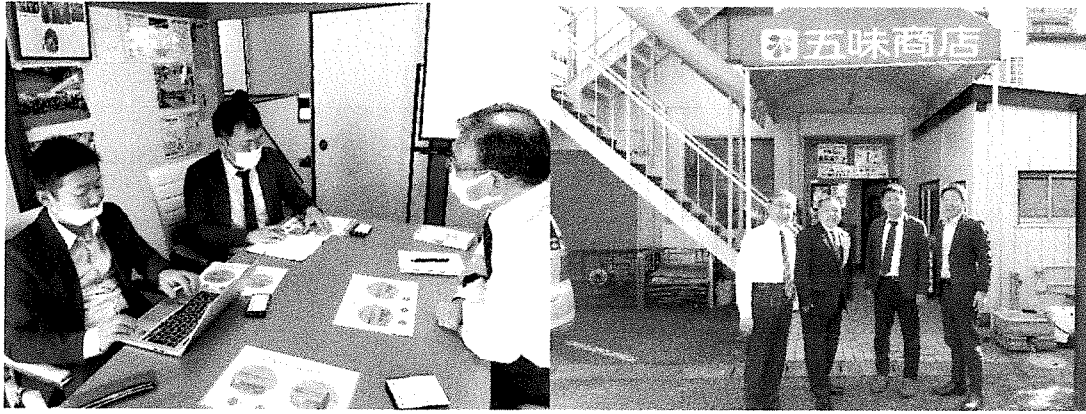
今回訪問した企業からは、今の市場の現状を包み隠さず教えて頂きました。

オーガニック商品であることは大切ですが、ただ作れば良いというのではなく、作り手の思いが商品から発信され、消費者に理解していただけて購入に至る流れが大切と思います。その例が、オーガニック3.0という考え方につながっていると思います。

そして何よりも、今後求められるのは、時代の流れの挑戦に対して、企業がどう応戦していけるのかではないでしょうか。その意味で、五味商店の社長が叫ばれる「本物の経営者を作る仕組みが必要」は今後、地域こそ必須の項目と思います。

いずれにしても、市場動向の変化に対して、対応していけるような有意義な取り組みが必要で、今回訪問した先生方を是非招いて出雲市の各企業の皆さまの支援に繋げていければと思います。

東京視察



五味商店（千葉県）意見交換会



全国スーパーマーケット協会（東京都）意見交換会



ナチュラルハウス（東京都青山）意見交換会



こだわりや本部（東京都池袋）意見交換会



イトーヨーカドー古淵店（神奈川県）視察、意見交換会



日比谷しまね館（東京都日比谷）視察

令和 5年 6月 29日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 福島孝雄



視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 5年 7月 3日 ~ 令和 5年 7月 3日 (1日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	島根県鹿足郡吉賀町 柿木 500-1	吉賀町役場にて有機農法に関する行政視察 ◆研修：オーガニック給食について 教育委員会職員から説明 ◆講演：「吉賀町の有機農業について」 食と農・かきのきむら企業組合 福原 氏より ◆交流：全員
3. 参加者	石橋広信 1名	
4. 添付書類	行程表 報告書 (別紙)	



(行程表)

出雲市役所集合：09:00 発



バス移動：松江道、中国道経由（三刀屋木次 IC—六日市 IC）



吉賀町役場：13:00～15:00 研修



バス移動：中国道、松江道経由（六日市 IC—三刀屋木次 IC）



出雲市役所：17:30 着



令和5年 7月 10 日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 福島孝雄



視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和5年 7月 3日 ～令和 5 年 7 月 3 日（1日間）	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	島根県鹿足郡吉賀町 柿木 500-1	吉賀町役場にて有機農法に関する行政視察 ◆研修：オーガニック給食について 教育委員会職員から説明 ◆講演：「吉賀町の有機農業について」 食と農・かきのきむら企業組合 福原 氏より ◆交流：全員
3. 参 加 者	石橋広信 1名	
	報告書（別紙）	



(報告書)

新聞等にも紹介されている島根県吉賀町での有機農業に関しての視察ということで、会派を超えて参加させていただきました。

【吉賀町概要】

2005年 六日市町・柿木村が新設合併し吉賀町が発足

有機農業の取組みは1980年より

交流情報誌の発行、啓発パンフレットの配布、啓発講演会の開催、田んぼの生き物調査の実施を行う。

人口と世帯

人口：5743人、男性：2750人、女性2993人、世帯数：3,032世帯

名産、特産品：米、わさび、有機野菜、ミニトマト

初めに、安永議長からの挨拶、そして事前の質問に対して回答をされながらの話となり、福原氏の講演となりました。

◆ 質問に対して（教育委員会職員）

Q1.耕地面積に占める有機農業の割合⇒11.9%

Q2.学校給食へ提供される米は有機か⇒100%有機米

Q3.町の独自認証があれば⇒野菜：食V1(有機JASに準ずる)食V2(同)、食V3(エコ農産物)

Q4.有機給食の推進により他への波及効果は⇒農家の方々の生きがいに繋がっている

Q5.学校給食のオーガニック食材の割合⇒米100%、野菜17品目で10%(町内全体の1/4)

Q6.オーガニック給食を進める上でのポイント⇒栄養士と生産者団体の理解

Q7.失敗例があれば⇒米に関しては収穫の1年前より資材の発注必要

Q8.「みどりの食料システム戦略」の利用は⇒10/10 交付金あり

Q9.除草作業の良い方法などがあれば⇒草を生えさせない方法として太陽熱消毒がありとのこと

Q10.有機JAS認定機関はどこ⇒兵庫県、島根県(美郷町)、その他

◆ オーガニックビレッジの創出に向けて（教育委員会職員）

市町村等の取組みを推進するため、有機農業の団地化や学校給食等での利用など生産から消費まで一貫し事業者や地域内外の住民を巻き込んで推進する取組みの試行や体制づくりについて物流の効率化や販路拡大等の取組みと一体的に支援するとともに、都道府県の推進体制づくりを支援し、有機農業推進のモデル地区を創出します。

島根県内のオーガニックビレッジ取組み状況：浜田市、吉賀町、大田市、邑南町

有機農業に取組んでいる率：経営耕地に対する有機農業面積率⇒11.9%

有機農業経営取組経営体数⇒17%

◆ 講演（福原圧史 氏）

吉賀の有機農業について・・・

★過疎化が進む中での村の暮らしの出発点（1970年代）

農地があること・・・食

山林があること・・・住、エネルギー

林産物があること・・・椎茸、わさび、栗、お茶などの林産物（換金）

山菜の活用・・・旬、薬用（薬草）

鳥獣や川魚がいること・・・自給の楽しさ、多様な暮らし、鮎、土曜の鰻、ジビエ

★有機農業との出会い

複合汚染に出てくる自給と之農業・・・理想的な暮らしの原点

生産は生きるため 生きることは食べること・・・生まれながらの山村に暗いイメージは全くない。

経済で測ると山村、山陰は暗くなる、豊かさで見ると明るくなる・・・佐藤忠吉さん（木次乳業）
農とは自分たちの食べ物を自分たちで作ること。ところが「業」がついて農業となると、そこで儲けなくてはいけなくなる。命の大本（おおもと）である農を経済的価値観で見ることになる。

「消費者が求めるから」「流行だから」といった理由で、物を作ってはならない。私は「農」の原点は、自分や家族が食べるのに必要なものをつくることだと思っている（佐藤氏）

ここからのスタートにより現在に至る。

（所感）

漫画美味しんぼに実名で出演された方であり、私が民間時代に大変にお世話になった県内の有機企業の社長等とも交流をお持ちで、まさに島根県の有機の神様のような人である。

有機に取り組まれる方々に共通していることだが、人間的にも穏やかで、落ち着きがあり、先を見据えていらっしゃるように思えてならない。

吉賀町の有機農業の今までの取組みは他の地域でも大変参考になる内容だった。時間はかかるが確実に前進していくことが大事だと思った。そしてその継続を支えていくのが販路の確保であることを再確認した。

最後に福原氏に「今後の有機農業の正しい方向性は？」と尋ねたところ、「地域挙げてのオーガニック」との答えだった。私もそう思っていたが、そのための必須条件があるのだが（人材）、福原氏より次の言葉が語られた「今はやる人がいない・・・」残念だが、これが現実である。これを何とかしていかないとこの国の未来はない。人材育成に全てがかかっている。今後はこのシステムの構築が求められる。

吉賀町役場にて研修会



(行程表)

出雲市役所集合：09:00 発



バス移動：松江道、中国道経由（三刀屋木次 IC—六日市 IC）



吉賀町役場：13:00～15:00 研修



バス移動：中国道、松江道経由（六日市 IC—三刀屋木次 IC）





出雲市役所：17:30 着



令和 5年 7月 24日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党
代表者氏名 福島孝雄  

視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	令和 5 年 8 月 8 日 ~ 令和 5 年 8 月 10 日 (3 日間)	
2. 視察研修先 及び視察研修 目的	8月8日 ●東京スカイツリー ●市川市役所 (千葉 県) ●SOCOLA 南行徳	★商業施設「ソラマチ」、その他物販施設視察 ★「手軽に楽しく健康ポイント」地域通貨の活用 による市内登録店舗での利用状況等視察 ★地元人気商業施設視察
	8月9日 ●都庁 ●杉並区役所 ●国会議事堂	★自宅で学べる無料訓練と若年世帯入居を緩和 されている都の取組みについて ★杉並区のラインワークスの取組みについて ★議事堂内の主な施設の視察
	8月10日 ●日比谷島根館 ●足立区役所	★島根館の物販状況と消費者ニーズの視察 ★子どもの可能性開く足立区の取組み
3. 参加者	出雲市議会公明党 福島孝雄、錦織稔、石橋広信 計 3名	
4. 添付書類	行程表	



出雲市議会公明党行政視察行程表 2023.8.8～8.10

8/8(火)

航空便 7:45 出雲発
9:10 東京着

- 東京スカイツリー
羽田空港第1ビル：9:52 発、押上駅 10:37 着（京急線乗換無）
【昼食】
押上駅：12:33 発、本八幡駅：12:57 着（京成押上線、乗換無）
- 市川市役所（千葉県）・13:30～15:00
（本八幡駅）
- SOCOLA 南行徳視察

泊り：市川グランドホテル（JR市川駅前）

8/9(水)

本八幡駅：8:06 発、都庁前駅：9:00 着（総武線乗換2回）

- 都庁 ・9:30～11:00
（都庁前駅）
【昼食】
都庁前駅：12:37 発、南阿佐ヶ谷駅：12:58 着（大江戸線・乗換1回）
- 杉並区役所 ・13:30～14:30
（南阿佐ヶ谷駅）
南阿佐ヶ谷駅：14:49 発、国会議事堂前駅：15:12 着（丸ノ内線・乗換無）
- 国会議事堂 ・15:30～17:00(未定・案)
（国会議事堂前駅）
国会議事堂前駅：17:15 発、新橋駅：17:28 着（丸ノ内線・乗換1回）
泊り：東急ステイ新橋（新橋駅）

8/10 (木)

新橋駅：9:52 発、日比谷駅：10:00 着（都営浅草線・乗換 1 回）

● 日比谷島根館視察

日比谷駅：11:51 発、梅島駅：12:24 着（千代田線・乗換 1 回）

● 足立区役所・13:00～14:30

（梅島駅）

梅島駅：14:49 発、羽田空港第 1 ビル：15:51 着（東武スカイツリーライン・乗換 1 回）

航空便 17:15 東京発

18:25 出雲市着

令和 5年 8月 15日

出雲市議会議長 様

会 派 名 公明党

代表者氏名 福島孝雄



印

視察研修について（報告）

このことについて、下記により実施いたしましたので、関係書類を添えて報告します。

1. 日 程	令和5年 8月 8日 ～令和 5年 8月 10日（3日間）	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	8月8日 ●東京スカイツリー ●市川市役所（千葉県） 8月9日 ●都庁 ●杉並区役所 ●国会議事堂 8月10日 ●日比谷島根館 ●足立区役所	★商業施設「ソラマチ」、その他物販施設視察 ★「手軽に楽しく健康ポイント」地域通貨の活用による市内登録店舗での利用状況等視察 ★自宅で学べる無料訓練と若年世帯入居を緩和されている都の取組みについて ★杉並区のラインワークスの取組みについて ★議事堂内の主な施設の視察 ★島根館の物販状況と消費者ニーズの視察 ★子どもの可能性開く足立区の取組み
3. 参 加 者	出雲市議会公明党 福島孝雄、錦織稔、石橋広信 計 3名	



【報告書】

●東京スカイツリー

商業施設の「ソラマチ」を視察。開店時とは店舗の内容が変わっていた。大手企業が残っていた。島根県では松江の「めのや」さんが唯一、頑張っておられました。

●市川市役所

市川市：人口 492,842 人、面積 56.39km²

世帯数 254,842 世帯

令和 5 年度当初予算 1,668 億円

「健康長寿日本一を目指す千葉県市川市の取組みについて」

手軽に楽しく健康ポイントを貯めて、地域通貨の活用による市内登録店舗での利用できる（令和 4 年度就任された田中市長が政策の柱として実施）

【健康ポイント事業】

アルコ（歩数の記録と健康データの測定）：5,000pt

※健康データの測定は市内 20 ヶ所にて利用可

健康講演会：100pt

江戸川クリーン作戦：50pt

フードドライブ：50pt

環境フェア：20pt

自治会加入促進：1,000pt

運転免許自主返納：10,000pt 等々

【デジタル地域通貨】

当初は地域限定

イチコ導入の予算

歳入：雑収入 4 億 5,000 万円（利用者のチャージ金額）、その他

歳出：負担金 約 6 億円(加盟店への支払い利用額)

委託料 1 億 2,000 万円（システム構築経費・システム運用経費・事務局運営経費）、その他

利用機器：スマートフォン、カード

加盟店：207 店

上記にてためた健康ポイント「アルコ」は 1 ポイント当たり地域通貨「イチコ」1 ポイント（1 円分）に交換。

アルコ 1,000 ポイントごとに 1,000 円分のイチコに交換し、加盟店で使用可能。

利用者（50 代女性）の声

「市役所に立ち寄った際に、手軽に健康データ測定でポイントをもらえて便利。アルコで買い物もできて楽しく健康づくりに励める」と話している。

「若者世帯」の募集も18歳未満の人がいれば誰でも応募可。
「全員が40歳未満」の若年夫婦も対象に。

パートナーシップの関係の予定のカップルも対象に年間300戸新設。

提供の住宅は2DK,3DKが中心で多子世帯も十分に暮らせる部屋を用意。

都は若者の結婚や子育てのサポートとともに、若者の入居を高齢化する団地の活力向上につなげていくことを目指す。

【所感】

若者世帯の意向を受け止めるとの思いは徹底されていた。

それは都知事の思いであり都の指針（メッセージ）となっていた。

その考えより、このような切れ目のない支援につながっている。

人が生活していくうえで一番大切な住宅を都がここまでできれば、なかなか地方への移動は起こりにくい状況だ。

地方はIターン、Uターンを取り組むのなら、この住宅対策を都に劣らない内容の企画にて行わないと良い結果は望めないと思う。

「高度なデジタルスキル習得による女性エンジニア育成について」

2023.07.10 スタート

後期40名募集（受講料無料）

eラーニングで好きな時間に学べる。

標準学習時間は150時間程度。

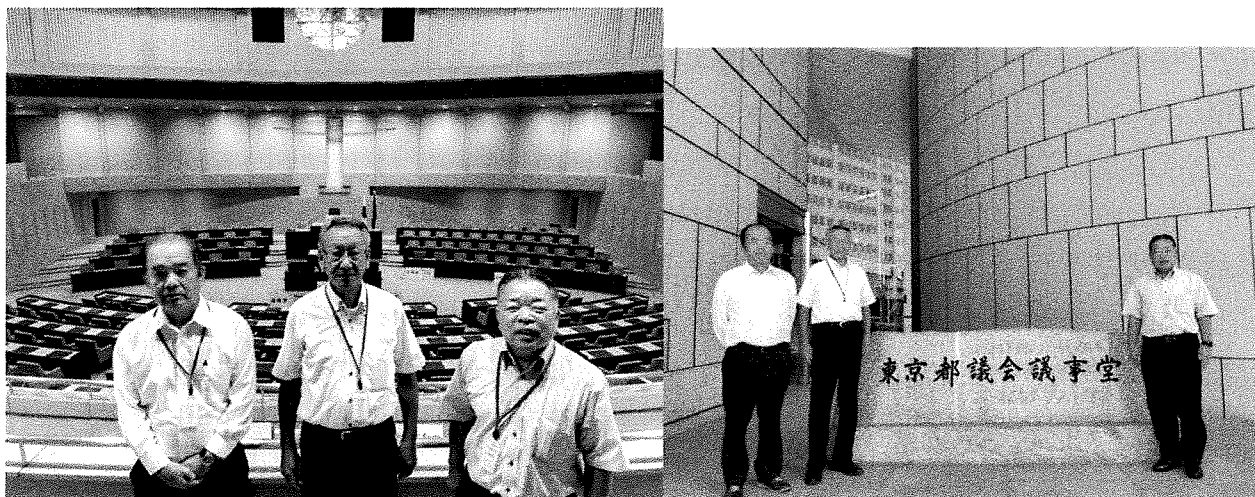
【女性ITエンジニア育成事業のポイント】

- 1.いつでもどこでも講義を受けられる。
- 2.就職までしっかりバックアップ
- 3.受講生向けの求人を公開

【所感】

非正規雇用で働いていたりする女性のキャリアアップやキャリアチェンジを後押しする取組で、女性の社会進出を大いに期待できると思います。出雲市も今後、IT企業の後押しをされていくと思いますが、都のような実力のある女性の育成にも是非取組んでいただきたく思います。

【都庁にて】



●杉並区役所

【杉並区】：杉並区のラインワークスの取り組みについて

杉並区議会は平成 27 年にタブレット端末導入を検討し、平成 30 年にネットツールとして、

「sideBooks」と「R INEWORKS」を導入している。

令和 2 年度には普通のタブレットからコンバーチブル型パソコンを導入している。

LINE WORKS を導入した経緯や決め手

議員が使用しているデバイスはそれぞれ異なることと、操作に慣れていない方もいる。ただ、ほとんどの議員が LINE を使用していたので、同じようなユーザーインターフェース（操作画面）なら無理なく使っていただけるのではないかと思い LINE WORKS を選定された。事務局からの要望としては、誰が読んだかわかること、議会の日程調整が容易にできること、このふたつは絶対条件として検討し、LINE WORKS なら既読機能とアンケート機能でこの条件を満たしているため、災害時の安否確認ができることも選んだ理由のひとつです。

議員からすれば 1 人対 1 人のやり取りですが、事務局からすれば 1 人対 48 人（議員定数）のやり取りになる。議員の IT リテラシーには温度差があるため、情報がひと目でわかり、誰にとっても使いやすく簡単に操作ができるツールを求めている。ストレスなくコミュニケーションを取れるツールとして LINE WORKS は最適だそうです。

LINE WORKS の具体的な利用シーン

ホームで委員会ごとに掲示板を作成し、事務局からの連絡を投稿しているが、議会前と議会中は連絡事項が多いので、ホームは頻繁に使います。グループトークの投稿だと画面上で流れてしまうので、一定期間固定したい大事な情報の掲示にはホームが適している。日程調整はアンケートを使うが、ホームに投稿することで閲覧場所を集約させ確認漏れを防いでいる。

連絡が多過ぎても煩わしく、何が自分宛ての大事な情報なのかわからなくなってしまうので、委員会ごとにホームの閲覧制限をかけて、必要な情報だけを見ていただけるように工夫している。

「日程調整のアンケート」

カレンダー機能では、議会のスケジュールを登録し共有している。これまで個人任せになっていた予定も確実に把握してもらえ、アラートを出すことで予定忘れの心配も減ったそうです。事務局内での利用としては、議場で議事進行をサポートする職員と、本部側で待機している職員のタイムリーな連絡手段にも使っている。臨機応変な対応が求められるなか、遠隔で瞬時に意思疎通できることは役に立っているそうです。

LINE WORKS 導入後、どのような変化があったのか。

事務局としては議員への連絡なので電話をかけるにしても気を遣うし、連絡が取れなければ何日もそのことを考えていなければならなかった。LINE WORKS を導入してから、議員の都合を気にせず連絡事項を伝えておくことができるし、既読がつけば情報が届いたと安心できるので、心理的な負担がなくなったとの事です。事務局からの連絡をいつでも振り返って見ることができるので、連絡漏れや確認漏れを防ぐことができ、議員も安心して使っている。

管理者側として、事務局の心理的負担を軽減したいという思いが一番あるので、それを実現でき

たことは大きな変化だと思います。利用する議員側としては、電話、FAX、メールなど複数の連絡

手段がLINE WORKS に統合されたことで情報が一元管理され、その都度、必要な情報を探す手間

とストレスがなくなったとのこと。ホームを見れば議会情報を確認できるので便利ですし、議会資

料を保存しているアーカイブともリンクさせ重い紙の資料を持ち運ぶ手間も省ける。議会資料のペ

ーパーレス化に向けた取り組みとしても一翼を担っています。

事務局では、ホームの連絡が既読になっているかを常に確認しており、議員側の利用促進を図って

います。自身に不要と判断される情報は閲覧しませんので、100%を求めるものではないですが、10

月の段階では既読率は全体で約 60%でした。既読がついていない議員への利用を促すことで、12 月は約 75%に上がっている。

LINE WORKS を導入することで、電話・FAX・メール連絡は年間約 100 時間、日程調整は約 40 時間削減できると考えており、事務局全体の議会の連絡調整にかかるコストは、人件費に算出すると、年間約 60 万円のコスト削減につながると考えているそうです。

LINE WORKS <利用料金>450 円×利用人数×12 ヶ月×1.1 = () 円

今後の展望

LINE WORKS をさらに活用し、議会の ICT 化や業務改革を進めていく考え。今は議会と事務局をつなぐコミュニケーションツールとして利用しているが、将来的には行政と連携して行政事務の効率化を図るとともに、地域コミュニケーションの活性化につなげていけるのではないかと期待しているそうです。

今回の視察で普通の「LINE」と「LINE WORKS」の違いがよく分かった。出雲市議会としては、「sideBooks」を主なツールとしているが、議会事務局からの連絡は「メール」が主であり、議員が既読したことが分からない。今後、議会事務局の負担軽減のためにも検討すべき内容だと感じた。



【杉並区役所にて】

● 国会議事堂見学

衆議院会館、国会議事堂等の見学

● 日比谷島根館視察

木原店長より案内

現在、11名にて営業、東急が県より委託を受け展開中。
日本橋の店舗時と比べ、客層が大きく変わったとのこと。
若い世代が多くなったとのこと。
持ち帰りには大きいもの、重たいものは避けられる。

【現在の売れ筋商品ランキング】

1位 赤てん (718円)

2位 奥出雲蕎麦 (648円)

3位 のどぐろ丼ネタセット (1,296円)

4位 天然板わかめ (756円)

5位 姫ラボ石けん (1,437円)

5 類移行後、来店者急増とのこと。

【新規商品の取り扱いについて】

3、6、9、12月（年4回）導入の機会あり

●足立区役所

「子どもの可能性開く足立区の取組み」

【若年者支援について】

足立区では都立高校の中途退学者が23区で一番多いとされた時期もあり、中退の防止が課題。

そのため若者支援協議会を設置。高校入学後も、中高の連携を密にして、生徒の状況に応じて支援を行うとともに、学びなおしや就職を希望する中退者についても、個別支援を実施。

若者が精神科医や公認心理師などの専門スタッフに何でも相談ができる窓口「あだち若者サポートテラス SODA」を昨年7月に開設。

【不登校児童の居場所支援とスクールソーシャルワーカーについて】

不登校児童の推移（小・中学校計）

H28年：1,078人（内、出席扱い204人）

R4年：1,162人（ ” 501人）

※「出席扱い」の人数とは児童、生徒の自立を助けるうえで有効・適切であると校長が判断した場合

★取組み

児童・生徒の状況に応じた支援策の展開

不登校の状態に応じた多様な学校以外の教育機関を確保

教育相談体制の強化と多様な教育機会の確保

居場所を兼ねた学習支援事業

ソーシャルスクールワーカー（SSW）の定義

支援する課題⇒不登校、いじめ・非行、対人関係、児童虐待、貧困、家庭環境、心身の健康、発達障害

【中退防止策と足立はばたき塾について】

★中退者未然防止の取組み

中高接続会議、

中学校教員と高校教員の情報交換会（年2回）

高校校内会議（随時開催）

★はばたき塾

目的：家庭の事情などにより、塾等の学習機会が少ないが、成績上位で学習意欲が高く、将来の夢の実現に向けて難関高校等への進学を目指す中学生に対して、志望する高校への入学を支援する。

対象学年：中学校3年生

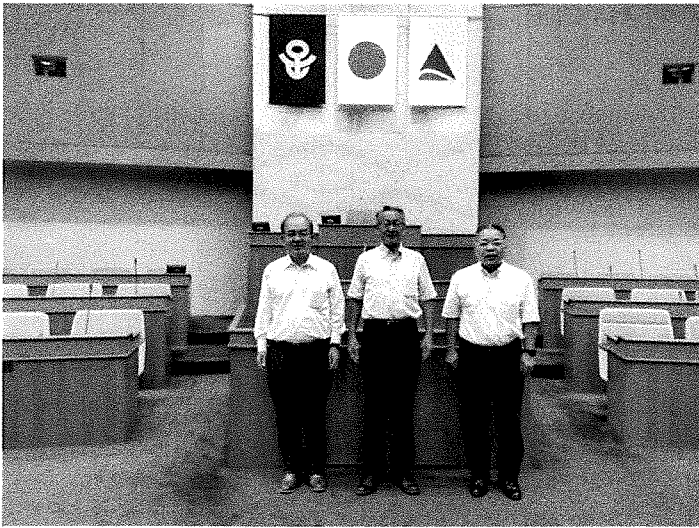
教科・内容：定期講座、集中講座、進路進学説明会、学力診断テスト、学力模擬

定員：100名

※毎年、受講者の9割以上が難関校を含む、第1志望または第2志望の高校に合格している。

【所感】

家庭の経済状況にかかわらず、全ての子どもたちが可能性を開いていけるようにとの思いから、足立区が行う学びや自立を支援する施策は学力調査における小中学生の平均正答率の向上や、高校生の中途退学の減少など、効果が表れ始めているようである。私は今回、この足立区の取組みを視察させていただき、区の「一人の人も救わずに行くものか」との強気意気込みと、そして何よりも、ソーシャルスクールワーカー（SSW）の方のどこまでも一人の人に寄り添っていく真心の行動に、行政がここまでできるのかと感動いたしました。この行動の基本にある「一人の人を大切にする」との思いが全ての課題を良い方向へ向かわせる力になっていると思います。出雲市も是非このことを行政も議会も共有していければ大きな成果を出せると思います。



【足立区役所視察】